

新闻摘要

にゅーすきじ ねん がついつたち にち ニュース記事から (2022年12月1日~2023年5月31日)

有关遗华日本人等、中国・库页岛归国者的新闻

ちゅうごくざんりゅうほうじんとう ちゅうごく さ はりん きこくしゃかんれん にゅーす 中国残留邦人等、中国・サハリン帰国者関連のニュース



2022 年 12 月 8 日 (星期四)

兵库县“明石日本語教室”搞的一项调查显示,回国定居的遗华日本人 2 代中,领取“生活保护”(低保)的比率上升到 80%,其中约有一半的人回答用日语进行日常对话很困难,12%的人回答“几乎不会说”。在就业方面也面临着很大障碍。

12 月 18 日 (星期日)

在长野市举办了一次日中关系讲座,前中学教师饭岛春光就“遗华日本孤儿第 3 代面临的挑战”一题做了讲演。他介绍了一个实例,在长野市的一所初中,出于对中国人的偏见,致使对归国者第 3 代和第 4 代的欺凌行为变得严重,并指出其根源在于“学校教育中没有充分把满蒙开拓团的历史传授给学生们”。

2023 年 1 月 13 日 (星期五)

在埼玉县,县政府的一个仓库里发现了 29 本历史资料,据信这些史料是县政府过去收集的、具有该县户籍的人赴满洲开拓时的信息。深谙开拓团的国立人文科学研究所国文学研究资料馆副教授加藤圣文认为,“全国各地都可能存有类似的历史资料”。他还指出,“国家应该积极努力去调查、整理、保护这些资料”,“通过史料上记载的遇难者的姓名,便可以让人们真实感觉到那些人的生死,从而向社会传达政策所带来的影响和悲剧是何等的巨大”。

1 月 28 日 (星期六)

在东京新宿区的早稻田大学举办了一场

2022 年 12 月 8 日(木)

兵庫県の「明石日本語教室」が実施した調査によると、日本に永住帰国した中国残留邦人 2 世は生活保護受給率が 8 割に上り、日本語での日常会話が困難と答えた者が約半数、「ほとんどできない」が 12 % だった。就労にも壁があるという。

12 月 18 日(日)

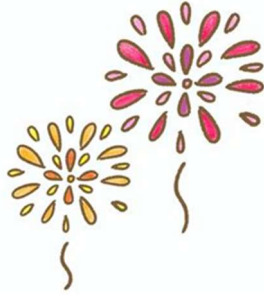
長野市で日中関係を考える講座が開かれ、元中学校教諭の飯島春光さんが「中国残留孤児 3 世が抱える課題」について講演した。長野市内の中学校で中国人への偏見から帰国者 3 世・4 世へのいじめが深刻化した事例を紹介し、その背景として「学校教育で満蒙開拓の歴史が十分に教えられていない」と指摘した。



2023 年 1 月 13 日(金)

埼玉県で、県内に本籍がある人が参加した満蒙开拓団について、県がかつて情報を集めたとみられる史料 29 冊が県庁倉庫で見つかった。开拓団に詳しい加藤聖文・人間文化研究機構国文学研究資料館准教授は、「同様な史料は全国にあるのではないか」とみる。「国が史料の所在を調査して把握し、整理、保管に取り組むべき」「史料に犠牲者の名前があることでその人の生死が浮かび上がり、政策が与えた影響や悲劇の大きさが社会に伝わる」とも指摘した。

关于满洲开拓团以及遗华日本人的讲座，他们当年是在国家政策的号召下迁往前满洲（现在的中国东北部），而在战争刚结束后的混乱中失去了许多宝贵的生命。该活动是由 21 岁的大学生北原康辉策划的，他是一名遗华日本妇女的曾孙，担任由日中两国学生组成的友好团体“日中学生会议”的管理委员会成员。北原同学表达了他策划此项活动的心愿，他说：“希望人们了解为什么会存在像我这样的人的历史”，“自己日语汉语都会说，希望能成为连结日本和中国的桥梁”。



2 月 4 日（星期六）

一般社団法人“大阪中国帰国者中心”被选为大阪律师协会的“人权奖”，该奖项授予为人权保护活动做出贡献的团体组织。该组织多年来一直从事遗华日本人的支援活动并“一直坚持以当事人为主体，在自助的基础上开展人权活动”，因此而获得好评。该中心于 1984 年由现年 90 岁的竹川英幸先生创立，他本人也是一名遗孤，目的就是为大阪的归国者建立一个支援基地。

3 月 9 日（星期四）

3 月 22 日世界棒球锦标赛 WBC，日本国家队“日本武士”时隔 3 届大赛第 3 次夺得冠军，而代表中国队参赛的球员之一真砂勇介选手，他的外祖父就是一名遗华日本孤儿。真砂勇介出生于日本，高中毕业后加入福冈软银鹰队，从本赛季起转籍到属于社会人棒球联盟的日立制作所公司。他虽然不会说中文，在团队内难以交流沟通，但还说他一定要让日中两国观众都能看到我是付出 120% 的力量投入比赛的。

1 月 28 日（土）

かつて国策として旧満洲（現中国東北部）へ移り住み、終戦直後の混乱の中で多くの犠牲者を出した満蒙開拓団や中国残留日本人について学ぶ講演会が、東京都新宿区の早稲田大学で開かれた。中国残留婦人のひ孫であり、日中両国の学生でつくる友好団体「日中学生会議」の運営委員を務める大学生・北原康輝さん(21)が企画した。北原さんは「自分のような人がいる歴史を知ってみたい」「日中両方の言葉を使える自分が、日中の懸け橋になりたい」と開催への思いを語った。

2 月 4 日（土）

一般社団法人「大阪中国帰国者センター」が、人権擁護活動に貢献する団体などに贈られる大阪弁護士会の「人権賞」に選ばれた。日本に永住帰国した中国残留邦人らの支援に長年携わり、「当事者が主体となり、自助的に人権活動を続けてきた」ことが評価された。同センターは、自らも残留孤児だった竹川英幸さん(90)が 1984 年、大阪に帰国者の支援拠点を設けようと立ち上げた。

3 月 9 日（木）

野球の世界一決定戦 WBC は、3 月 22 日に日本代表「侍ジャパン」が 3 大会ぶり 3 度目の優勝を飾ったが、中国チームの代表選手に、母方の祖父が中国残留孤児だった真砂勇介選手がいた。真砂選手は日本生まれで高校卒業後、福岡ソフトバンクホークスに入団し、今季からは社会人野球の日立製作所に移籍した。中国語を喋れないのでチーム内のコミュニケーションは難しかったが、日本と中国の人々に自分のプレーを 120% 出す姿を見てほしいと試合に臨んだ。9 日の対日本戦では 1 本のヒットを打って中国チームに貢献し

9日在对阵日本队的比赛中，他打出了一个安打，为中国队立了一功，但最后还是输给了日本队。

3月17日（星期五）

11日，在福岛市举行了一场电影《望乡之钟 满蒙开拓团的落日》的放映会（至23日），该影片描述了山本慈昭先生的一生，他一生致力于寻找遗华孤儿的亲属，被称为“遗华孤儿之父”。

3月20日（星期一）

79岁的歌手加藤登纪子出生于前满洲的哈尔滨，20日在长野县阿智村的满蒙开拓纪念馆与62岁的中国画家王希奇进行了友好交谈。值此开馆十周年之际，该馆展出了王先生的巨幅画作《一九四六》（3m×20m 油画）。这幅作品细致地描绘了战争结束后的第二年，即1946年，约500名日本移民在辽宁省葫芦岛的港口前往遣返船的队伍。该作品花了三年半的时间才完成。

4月1日（星期六）

23岁的大学生大桥辽太郎是一名在日本出生长大的遗华日本人第3代，他出版了名为《我7岁时的留学经历》一书。书中记述了他小学期间在中国度过的3年经历。穿插一些在当地遇到的轶闻趣事，介绍了他在童年时如何在不同的文化中面对自己的根——中国。“我希望通过这本书让更多的人分享我的经历和回忆，若能促进日中之间的相互理解，我将无比高兴，”大桥说。



4月4日（星期二）

56岁的新田树先生出版了一本摄影集《Sakhalin（萨哈林）》（2022年），并被选为

たが、日本チームには敗れた。

3月17日（金）

中国残留孤児の肉親捜しに生涯を捧げ、「中国残留孤児の父」と呼ばれた山本慈昭氏の生涯を描いた映画「望郷の鐘 満蒙开拓団の落日」の上映会が11日、福島市内で催された（～23日）。

3月20日（月）

長野県阿智村の満蒙开拓記念館で、旧満洲ハルビン生まれの歌手・加藤登紀子さん(79)と中国人画家・王希奇さん(62)が20日、懇談した。同館では開館10周年を機に、王さんの巨大絵画「一九四六」(3m×20m 油絵)を展示。作品には、終戦翌年の1946年に遼寧省の葫蘆島の港で、引き揚げ船に向かう日本人移民約500人の行列の様子が、緻密に描かれている。完成までに3年半が費やされた。

4月1日（土）

日本で生まれ育った中国残留邦人3世の大学生・大橋遼太郎さん(23)が「七歳の僕の留学体験記」を出版した。小学校時代に中国で過ごした3年間の経験を綴っている。異文化の中、幼少期に自分のルーツ・中国とどう向き合ったか、現地のエピソードを踏まえて紹介している。「本を通じ、僕の経験や思い出を共有してもらい、日中の相互理解につながればうれしい」と大橋さんは語った。

4月4日（火）

写真集「Sakhalin(サハリン)」(2022年)を出した新田樹さん(56)が、「写真界の芥川賞」と呼ばれる第47回木村伊兵衛写真賞に選ばれた。新田さんは、終戦後もサハリン(樺太)残留を余儀なくされ

第 47 届木村伊兵卫摄影奖，此奖被称为“摄影界的芥川奖”。新田先生走访了许多战后被迫留在萨哈林(库页岛)的人。他在摄影集中这样写道：“萨哈林对我来说意味着什么？那就是自日本统治时期以来从未间断过的、对这片土地的记忆。我尽可能把与她们频繁接触交流中蓦然流露出的场景，尽收在镜头里，给人展示出一幅如真实生动的照片来……”。随后，在东京银座举办了一次纪念获奖的个人展（4月28日至5月11日）。

4月8日（星期六）

“微风之会”（岐阜市）是一个由从前满洲被遣返的人们成立的民间组织，它一直为来自中国东北的高中生和在日本留学的研究生提供奖学金。然而，这次在它走完 30 年的历程之后落下了帷幕。最后一次奖学金颁发仪式于 8 日在名古屋市举行，会上回顾了对日中友好做出贡献的历史，并对引领未来的学子们给予了鼓励。

4月14日（星期五）

日中友好协会山梨分会近日对在中国出生的遗华日本人子女、现居住在山梨县的“2代归国者”进行了问卷调查。在回答的 34 人中，超过 70%的人回答“日语说得不太好”或“几乎不会说”，其中 30%为“生活保护”领取者。该协会山梨分会事務局局长木下说：“有必要修改法律，不仅让第 1 代，而且第 2 代也能过上安稳的老后生活。”

4月17日（周一）

在广岛县尾道市的平山郁夫美术馆，举办了一个再现平山郁夫画作的彩纸贴画展（至 5 月 13 日）。该画展展出了 76 岁的遗华日本孤儿岩井梅子女士和 62 名中国学生的作品，以贴纸画这种形式来促进日中友好交流。岩井女士出生于大连，1996 年回到日本。她作为一名

ひとひと たず ある
た人々を訪ね歩いた。「私にとってのサハリンとは？それは日本統治時代から途切れることなく続く土地の記憶。交流を重ねた女性たちとの会話の中でふとたち現れる情景を、現在の光を集めてうつしだすことができれば…」と写真集に記している。この後、受賞記念の個展が東京銀座で開催された(4月28日～5月11日)。

4月8日(土)

旧満洲からの引き揚げ者らで立ち上げた市民団体「微風の会」(岐阜市)は、中国東部の高校生や日本に留学する大学院生への奨学金事業を続けてきた。しかしこのたび 30 年の歴史に幕を下ろした。最後の奨学金授与式は 8 日に名古屋市内で開かれ、日中友好に貢献してきた歩みを振り返り、未来を担う学生たちにエールを送った。



4月14日(金)

日中友好協会山梨支部はこのほど、中国残留日本人の子として中国で生まれ、今は山梨県で暮らす「2世帰国者」を対象にアンケートを行った。回答した 34 人のうち、7割以上が「日本語があまりできない」「ほとんどできない」と答え、生活保護受給者も 3割いることがわかった。同協会山梨支部事務局の木下事務局長は「1世だけでなく、2世も安定した老後が送れるよう法改正が必要だ」と話す。

4月17日(月)

広島県尾道市の平山郁夫美術館で、平山郁夫の日本画を模写したちぎり絵展が始まった(～5/13)。ちぎり絵を通じて日中交流を進める中国残留

日本紙贴纸画的讲师，曾多次在日本和中国举办讲座和作品展览。

4 月 25 日（星期二）

日本唯一的满洲开拓史专门机构“满蒙开拓和平纪念馆”（长野县阿智村）于 25 日迎来了开馆 10 周年。馆长寺泽秀文表示，“在悼念遇难者的同时，我们还要迈出新的第一步，通过回顾那段复杂的历史汲取教训，进一步深化和平教育。”

4 月 26 日（星期三）

今年第 42 届土门拳奖获得者、摄影师船尾修在东京新宿区举办了一次名为《满洲国的现代建筑遗产》展览（至 5 月 8 日）。从 2016 年开始，船尾先生共花费了 3 年的时间，走访了大约 400 个地方，拍摄了中国东北地区至今仍保留着的建筑物，这些建筑是由曾经从日本

移民到满洲的人建造的。船尾先生说，“希望能为看到这些照片的人提供一个切入点，引起对历史的反思以及满洲的思考”。



4 月 30 日（星期日）

47 岁的罗哈乔芭·蕾娜带着双胞胎儿子从被俄罗斯入侵的乌克兰疏散到了岩手县洋野町。30 日在回国之前，她将一封感谢信和一张寄语纸板交给了町长冈本正善，并说“大家都对我很好。我这辈子也忘不了洋野町。”蕾娜丈夫的父亲上野石之助（已故）是该地出生的遗桦太（萨哈林）日本人，在乌克兰生活多年，晚年曾暂时回国，实现了与亲属团聚。基于这种亲缘关系，蕾娜才得以投奔洋野町的亲戚疏散到此地。她说：“住在这里，使我感到和平和健康是最为重要的。我希望人们不要忘记，战争仍在乌克兰持续着，仍有儿童在无辜地死

孤児の岩井梅子さん(76)や中国の学生たち 62 人の作品が展示されている。岩井さんは大連で生まれ、1996 年に帰国。和紙のちぎり絵講師として日中両国で教室や作品展を開いている。

4 月 25 日(火)

満蒙開拓の歴史に特化した国内唯一の施設「満蒙開拓平和記念館」(長野県阿智村)が 25 日、開館 10 周年を迎えた。寺澤秀文館長は「犠牲を悼みつつ、複雑な歴史を振り返る中で培われてきた教訓から学び、平和への学びを深めていくために新たな一歩を踏み出したい」とのコメントを発表した。

4 月 26 日(水)

今年の第 42 回土門拳賞を受賞した写真家、船尾修さんの作品展「満洲国の近代建築遺産」が、東京都新宿区で開催された(~5/8)。船尾さんは、かつて日本から旧満洲に渡った人々が手掛けた、中国東部に今も残る建築物を、2016 年から 3 年間で約 400 か所を訪ね歩き撮影した。船尾さんは「満洲とは何だったのか、写真を見た人が歴史を考える入り口になれば」と語った。

4 月 30 日(日)

ロシアの侵襲を受けたウクライナから、双子の息子とともに岩手県洋野町に避難していたロハチヨバ・レーナさん(47)。30 日、帰国を前に、岡本正善町長に感謝の手紙と色紙を手渡し、「皆さんに仲良くしていただいた。洋野町のことは生涯忘れない」と話した。レーナさんの夫の父・上野石之助さん(故人)は同町出身の樺太(サハリン)残留日本人で、長年ウクライナで暮らし、晩年には日本に一時帰国して親族と再会できていた。こうした縁から洋野町の親族を頼って避難したレーナさん。「ここで

去。

5 月 3 日 (星期三)

位于长野县阿智村的满洲开拓团纪念馆，与包括当地高中生和大学生在内的志愿者合作，将采访到的前满洲开拓团的团员们的证词视频转换成文字记载下来。作为第一期，10 人的证词被编入小册子《每个人的回忆 特辑》。19 岁的一年级大学生木下爱利用暑假来帮忙，她说：“我希望它在未来几十年都能保留下去，让尽可能多的人知道它。”这项文字转换工作以后将继续进行，小册子可以在纪念馆翻阅。



5 月 9 日 (星期二)

兵库县丰冈市的合桥小学 (在校生 81 名) 开展了一项了解该地区并将该地区的历史传给后代的活动。在附近建有一座“殉难者之碑”，碑上刻有死于前满洲的 346 人的名字。在这座石碑前，合桥小学 5、6 年级的 34 名学生聆听了山下幸雄先生 (90 岁，战争结束时 12 岁) 的讲述。山下先生曾是“大兵库开拓团”的成员，被送往前满洲。最后山下先生这样说道：“我希望人们能够感受到战争的恐怖，感受并珍惜平淡的日常生活幸福”。

暮らし、一番大事なのは平和と健康だと感じた。今も現地では戦争が続き、子供も亡くなっていることを忘れないでほしい」と語った。

5 月 3 日 (水)

長野県阿智村の満蒙開拓記念館は、旧満洲に渡った元開拓団員から聞き取った証言の映像を、地元の高校生・大学生を含むボランティアと協力して文章に書き起こしている。第 1 弾として 10 人の証言が冊子「それぞれの記憶 特別版」にまとまった。夏休みを活用して手伝った大学 1 年生の木下愛さん (19) は、「何十年先まで残り、少しでも多くの人に知ってもらえれば」と語った。書き起こしは今後も続けられ、冊子は記念館で読める。

5 月 9 日 (火)

兵庫県豊岡市の合橋小学校 (児童 81 人) は、地域を知り、地域の歴史を後世に引き継ぐ活動をしている。近くには、旧満洲で亡くなった 346 人の名前が刻まれた「殉難者之碑」が建立されている。合橋小の 5、6 年生 34 人は、この石碑の前で、旧満洲へ送り出された「大兵庫開拓団」の元団員・山下幸雄さん (90、終戦当時 12 歳) から話を聞いた。山下さんは最後に「戦争の恐ろしさや、日ごろの何気ない生活の幸せを感じてほしい」と語った。



P17 「锻炼大脑」的正确答案 「脳トレ」クイズの答え

· 拼图游戏 (パズル) : 5 汉字谜语 (漢字) 問題 1: 金字旁 (金偏) 問題 2: 国字框 (国構え)